

JACR委員会報告 [教育研修委員会]



大木 いずみ 理事

栃木県立がんセンター

伊藤 秀美 愛知県がんセンター研究所
福留 寿生 三重大学医学部附属病院がんセンター
寺本 典弘 四国がんセンター

教育研修委員会では、下記の事業を展開してきました。

- 第一事業:登録データの質の向上
- 第二事業:実務者表彰制度の主担当及び表彰者の選考
- その他の事業

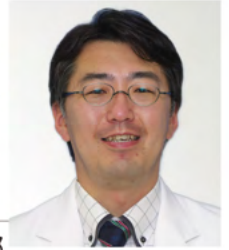
現在は、私の他に伊藤秀美先生(愛知県)、福留寿生先生(三重県)、杉山裕美先生(広島県)、寺本典弘先生(愛媛県)とともに活動しています。

第一事業は、全国がん登録になって悉皆性(完全性)や標準化がはかられましたが、がん対策に貢献できるデータを作り続けるためには、登録に係る人々の力は欠かせません。データはかなりの部分、自動的に集まる仕組みとなりましたが、どのような事業も人が関わり、育てていかなければ価値あるものにはなりません。こういった点をサポートすべく、教育研修委員会では、「地域がん登録の手引き」の更新や「都道府県による病院等への届出教育」支援を進めていきたいと考えています。

第二事業は実務者表彰制度の主担当及び表彰者の選考を、長い間実施してきました。この事業は、全国がん登録に移行したため、今年度をもって最後となります。

その他の事業としては、日本がん登録協議会(JACR)学術集会時のがん登録担当者研修会への協力、日本公衆衛生学会での自由集会の開催などを実施してきました。また、国際研究への参加もサポートしており、国際がん研究機関(IARC)と国際がん登録協議会(IACR)による「5大陸のがんの罹患率」(CI5)へのデータ提出、および地域がん登録に基づくがん患者の生存率を国際間で比較する大規模な共同プロジェクト「CONCORD研究」への参加サポートを行っています。以前はCI5、CONCORD研究は限られた精度の高い地域のみ参加してきましたが、昨年度呼びかけたCONCORD3研究には16府県が参加を表明し、当委員会は8つの県のデータ提出支援を行っています。これからは、データの収集・作成から活用に至るまで幅広く支援できればと思っています。

JACR委員会報告 [広報委員会の活動と今後の方針]



松坂 方士 理事

弘前大学医学部附属病院 医療情報部

杉山 裕美 (公財)放射線影響研究所
福留 寿生 三重大学医学部附属病院がんセンター
片山佳代子 神奈川県立がんセンター臨床研究所
田淵 健 東京都立駒込病院

これまで、広報委員会はニューズレターの発行を通して各都道府県がん登録室やがん登録データを利用した疫学研究の紹介、がん対策の今後に関するご寄稿をいただくなど、会員の皆さまのがん登録運営に役に立つ情報を発信してきました。また、当協議会ホームページの内容を見直し、がん対策の基盤であるがん登録の重要性をアピールすることにも努めています。

平成28年からがん登録等の推進に関する法律(以下、がん登録推進法)が施行され、会員である都道府県のがん登録への関わり方が変化しています。これまでの地域がん登録は、精度向上を中心的な目標に掲げて先進県を参考にしながら各都道府県が別個に取り組んできました。しかし、全国がん登録では統一されたシステムの下で、その一歩先であるデータ利用まで都道府県が整備する必要があります。広報委員会ではこのような状況を踏まえて、ニューズレターに以下のような内容を盛り込んで更に会員の皆さまの役に立つ情報提供、情報共有を図りたいと考えています。

- (1)安全管理やデータ利用要領など、今後整備が必要な事項に関する情報提供
- (2)行政ががん登録資料をがん対策に利用する場合のデータ解釈や段取りの紹介
- (3)統計資料の解釈や具体的な登録作業・運用などの情報提供

また、がん登録推進法では院内がん登録に関しても定められており、当協議会としても今後院内がん登録をどのように取り込んでいくかが重要な課題です。将来的には、院内がん登録実務者の皆さまへの情報提供として、データ集計と報告書等への活用方法の紹介、登録実務に必要な知識の周知などを考えていますし、タイムリーな提供手段としてメールマガジン形式なども検討しています。

広報委員会ではSkypeを利用して適宜意見を交換しています。会員の皆さまから「このような情報が欲しい」というご意見をいただければ、ぜひ検討させていただきたいと考えております。